

# 家畜衛生週報

ANIMAL HYGIENE WEEKLY

No.3914 農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課 2026. 8. 3

- ・第66回全国家畜保健衛生業績発表会演題（熊本県）…………… 233
- ・動物用医薬品副作用報告（令和8年6月）…………… 236
- ・各班日より（畜水産安全管理課 愛玩動物用飼料対策班）…………… 238

## ☆第66回全国家畜保健衛生業績発表会抄録（熊本県）

流行性出血病ウイルス血清型6による嚥下障害等の発生とウイルスの流行状況調査

熊本県中央家畜保健衛生所  
古庄 幸太郎

### 1 はじめに

流行性出血病ウイルス（以下、EHDV）はヌカカ等によって媒介されるアルボウイルスで、レオウイルス科オルビウイルス属に分類され、牛に嚥下障害等を起こす。EHDVには7つの血清型が報告されており、国内では血清型2に含まれるイバラキ病の他、血清型1、5、6、7の侵入が確認されている（表1）。EHDV血清型6（以下、EHDV6）は2015年に兵庫県で嚥下障害等が確認されて以降、2020年に長崎県のおとり牛からも検出されているが症状はみられていない。

今回、2023年にEHDV6が関与した嚥下障害や早流産事例が確認されたことから、病性鑑定を実施した6事例（嚥下障害2事例、発熱1事例、早流産3事例）のうち3事例、2023年度のアルボウイルスサーベイランスの成績、並びに県内の流行状況調査の成績を併せて報告する。

### 2 病性鑑定事例

#### （1）病性鑑定事例①（舌麻痺）

10月2日、黒毛和種繁殖用雌牛が、分娩後に食欲廃絶及び飲水困難となり、10月5日に舌麻痺を呈した（写真1）。

表1 国内のEHDV検出事例

| 発生年度  | 血清型            | 発生地域                      | 症状など             |
|-------|----------------|---------------------------|------------------|
| 2013年 | EHDV2          | 鹿児島県                      | 嚥下障害             |
| 2015年 | EHDV6          | 兵庫県                       | 嚥下障害             |
| 2016年 | EHDV7          | 福岡県、長崎県                   | 発熱、流死産           |
| 2017年 | EHDV5          | 沖縄県                       | 流産               |
| 2019年 | EHDV7          | 宮崎県                       | 嚥下障害、流産          |
| 2020年 | EHDV6          | 長崎県                       | 無し（おとり牛）         |
| 2023年 | EHDV6          | 熊本県、九州複数県                 | 嚥下障害、早流産         |
| 2024年 | EHDV6<br>EHDV7 | 熊本県、西日本複数県<br>※沖縄県のみEHDV7 | 嚥下障害、流産<br>ミイラ胎子 |

発症牛とその子牛、同居牛4頭の血液を用いて、アルボウイルス特異遺伝子検索、ウイルス分離及び抗体検査を実施した。

遺伝子検査では、発症牛及び同居牛2頭の全血からEHDV特異遺伝子が検出された。同居牛2頭のポスト検体からもEHDV特異遺伝子が検出された。

同居牛1頭の洗浄血球からEHDVが分離され、動物衛生研究部門（以下、動衛研）にてEHDV6に分類された。

中和試験では、発症牛と同居牛の血清からEHDV6に対する抗体（以下、EHDV6抗体）が検出されたが、ポスト血清で有意な抗体価上昇はみられなかった（表2）。

#### （2）病性鑑定事例②（嚥下障害）

11月14日、黒毛和種繁殖用雌牛が嚥下障害を呈し飲水困難となったため、11月30日に発症牛及び同居牛4頭の血液を用いてアルボウイルス特異遺伝子

検索、ウイルス分離及び抗体検査を実施した。その後12月16日に当該牛が死亡したため剖検を行い、ウイルス学的検査及び病理組織学的検査を実施した。

遺伝子検査では発症牛の全血からEHDV特異遺伝子が検出された。ウイルス分離では当該牛の洗浄血球からEHDVが分離され、動衛研でEHDV6に分類された。

中和試験では、5頭全頭からEHDV6抗体が検出されたが、ポスト血清での有意な抗体価上昇は認められなかった(表3)。

剖検所見では、食道の扁平化がみられ、病理組織学的検査では舌や食道に筋線維の膨化、横紋消失がみられた。



写真1 舌麻痺 (事例①)

表2 EHDV検査成績 (事例①)

| No. | 検体   | 遺伝子検査 |       | 中和試験  |       | ウイルス<br>分離 |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|------------|
|     |      | EHDV  |       | EHDV6 |       |            |
|     |      | 10/6  | 11/27 | 10/6  | 11/27 |            |
| 1   | 発症牛  | +     | NT    | ≧256  | NT    | －          |
| 2   | 子牛   | －     | －     | <2    | <2    | －          |
| 3   | 同居牛1 | +     | +     | 16    | 32    | －          |
| 4   | 同居牛2 | +     | +     | 128   | 64    | +          |
| 5   | 同居牛3 | －     | －     | 32    | 32    | －          |
| 6   | 同居牛4 | －     | －     | 8     | 4     | －          |

### (3) 病性鑑定事例③ (早産、嚥下障害)

10月31日、ホルスタイン種の母牛から予定日より21日早く生まれた黒毛和種ET子牛が、四肢湾曲により起立困難、舌麻痺及び嚥下障害により初乳が摂取できず間もなく死亡した(写真2、3)。子牛の剖検を行い、子牛臓器及び母牛血液を用いてアルボウイルス特異遺伝子検索、ウイルス分離、抗体検査、病理組織学的検査を実施した。

遺伝子検査では子牛の臓器(肝臓、脾臓、脳及び脊髄)、胎膜及び母牛全血からEHDV特異遺伝子が検出された(表4)。

中和試験では、母牛のポスト血清でチュウザン(64倍→256倍以上)、ディアギュラ(8倍→64倍)、EHDV6(8倍→64倍)の抗体価上昇が認められた(表5)。初乳未摂取子牛の血清からもEHDV6抗体が検出された。

なお、2023年度のアルボウイルスサーベイランスでは本県へのチュウザンウイルスの侵入が確認されていることから、本牛もチュウザンウイルスに感染したものと推察された。

病理組織学的検査では、舌に筋線維間結合組織の水腫、気管支及び肺胞腔内に誤嚥物及び炎症細胞浸潤が認められたことから、子牛の直接の死因は誤嚥性肺炎と診断した。

表3 EHDV検査成績 (事例②)

| No. | 検体   | 遺伝子検査 |       | 中和試験  |   | ウイルス<br>分離 |
|-----|------|-------|-------|-------|---|------------|
|     |      | EHDV  | EHDV6 |       |   |            |
|     |      | 11/30 | 11/30 | 12/14 |   |            |
| 1   | 発症牛  | +     | 32    | 64    | + |            |
| 2   | 同居牛1 | －     | 4     | NT    | － |            |
| 3   | 同居牛2 | －     | 2     | 2     | － |            |
| 4   | 同居牛3 | －     | 2     | 4     | － |            |
| 5   | 同居牛4 | －     | 4     | 2     | － |            |

表4 EHDV検査成績 (事例③)

| 検体 | EHDV<br>遺伝子 | 検体   | EHDV<br>遺伝子 |
|----|-------------|------|-------------|
| 心臓 | -           | 脳    | +           |
| 肺  | -           | 脊髄   | +           |
| 肝臓 | +           | 筋肉   | -           |
| 腎臓 | -           | 胎膜   | +           |
| 脾臓 | +           | 母牛全血 | +           |

### 3 アルボウイルスサーベイランス

2023年の本県へのEHDV侵入状況を調査するため、アルボウイルスサーベイランスで採材した県内50頭(5地域の16農場)の未越夏牛(6、8、9、11月採血分)について、EHDV特異遺伝子検査、ウイルス分離及び中和試験を実施した。

遺伝子検査では、6月及び8月に採材した検体からはEHDV特異遺伝子は検出されず、9月に採材した1頭の血液からEHDV特異遺伝子が検出され、当該牛の洗浄血球からEHDVが分離された。分離EHDVは動衛研にてEHDV6に分類された。11

月には18頭の血液からEHDV特異遺伝子が検出され、うち1頭からEHDV6が分離された(表6)。

中和試験では、6、8、9月の血清からはEHDV6抗体は確認されなかったが、11月に30頭の血清でEHDV6抗体が確認された。

なお、採血を実施した牛においては、嚥下障害等の症状はみられなかった。

#### 4 EHDV流行状況調査

熊本県内でのEHDVの流行状況をより広範に調査するため、2023年7月以降の病性鑑定等で保存していた全血及び血清を用いてEHDV特異遺伝子検査及び中和試験を実施した。

その結果、遺伝子検査で274検体中21検体からEHDV特異遺伝子が検出された。いずれも10月以降に採材された検体であった(表7)。

中和試験では、184検体中9月30日以降に採材された計85検体から抗体が検出された(表8、図1)。

#### 5 考察

2023年にEHDV6の流行が確認されるまで、国内でEHDV6による症状が確認されたのは2015年に兵庫県で報告された事例のみであり、当該事例では、食欲不振、発熱及び嚥下障害等が報告されている。本県においては嚥下障害に加えて、早流産等も認められたことから、2015年に確認されたウイルス株とは病原性が異なる可能性が示唆された。

また、事例①及び②では嚥下障害の発症時にはすでにEHDV6抗体を保有していたことから、EHDV感染後、発熱等の症状を呈し、抗体を産生した後、嚥下障害発症までに一定の期間を要したものと推察された。加えて、1か月以上の間隔を空けて採材したペア検体の双方からもEHDV特異遺伝子及びEHDV6抗体が検出され、抗体保有下においても血中からEHDV6特異遺伝子が検出され得ることが確認された。このことから、病性鑑定に際してはEHDV特異遺伝子が検出された場合であっても、それが病態に関与しているか否かについて、総合的に判断する必要があると考えられた。

アルボウイルスサーベイランス及び病性鑑定検体を用いた流行状況調査からは、9月以降にEHDV特異遺伝子が検出され、9月下旬以降に抗体陽性牛が確認されたことから、EHDV6の県内への侵入時期は9月であったと推察された。

病性鑑定事例②において、育成時にイバラキ(EHDV2)ワクチンを接種し、イバラキウイルスに対する抗体(イバラキ抗体)を保有していた同居牛では発症が認められなかった一方、ワクチン未接種牛のみで発症が確認された。このことから、イバラキ抗体がEHDV6に対して発症防御に関与している可能性が示唆された(表9)。現在、イバラキワクチンによる他の血清型のEHDVに対する効果は期待できないとされていることから、今後、EHDV6の2023年流行株とイバラキウイルスを含む他の血清型のEHDVとの相同性等について詳細な検討が必要であると考えられた。



写真2 前肢の湾曲



写真3 舌麻痺(嚥下障害)

表5 抗体検査成績(事例③)

| No | 検体          | 採材日   | チュウザン | ディアギュラ | EHDV6 |
|----|-------------|-------|-------|--------|-------|
| 1  | 母牛<br>プレ血清  | 11/1  | 64    | 8      | 8     |
| 2  | 母牛<br>ポスト血清 | 11/15 | ≥256  | 64     | 64    |
| 3  | 子牛血清        | 11/1  | <2    | <2     | 2     |

表6 EHDV検査成績

| 家保 | 9月  |    | 11月 |          |
|----|-----|----|-----|----------|
|    | 遺伝子 | 抗体 | 遺伝子 | 抗体(GM値)  |
| 中央 | 0   | 0  | 7※  | 10(32.0) |
| 城北 | 0   | 0  | 3   | 8(26.0)  |
| 阿蘇 | 0   | 0  | 0   | 0(1.0)   |
| 城南 | 0   | 0  | 2   | 2(2.3)   |
| 天草 | 1※  | 0  | 6   | 10(64.0) |
| 計  | 1   | 0  | 18  | 30(10.4) |

※9月及び11月の1検体ずつからEHDV6分離

表7 EHDV遺伝子検査成績

| 家保 | 検査数 | 陽性数 | 遺伝子検出月  |
|----|-----|-----|---------|
| 中央 | 149 | 8   | 11月、12月 |
| 城北 | 41  | 8   | 10月、11月 |
| 阿蘇 | 33  | 2   | 10月、11月 |
| 城南 | 34  | 3   | 12月     |
| 天草 | 17  | 0   | —       |
| 計  | 274 | 21  |         |

表 8    EHDV6抗体検査成績

|     | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 計   |
|-----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|
| 検体数 | 1  | 54 | 16  | 57  | 52  | 3  | 184 |
| 陽性数 | 0  | 2  | 11  | 24  | 45  | 3  | 85  |

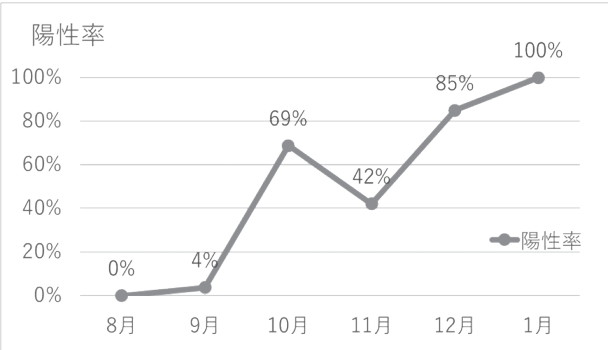


図 1    EHDV6抗体陽性率推移

表 9    病性鑑定事例②の抗体検査成績

|      | EHDV6 |       | イバラキ (EHDV2) |       |
|------|-------|-------|--------------|-------|
|      | 11/30 | 12/14 | 11/30        | 12/14 |
| 発症牛  | 32    | 64    | <2           | <2    |
| 同居牛1 | 4     | NT    | ≧256         | NT    |
| 同居牛2 | 2     | 2     | 64           | 32    |
| 同居牛3 | 2     | 4     | ≧256         | 128   |
| 同居牛4 | 4     | 2     | 8            | 4     |

参考文献

[1] Kamomae, Y et al. :Epizootic hemorrhagicdisease virus serotype 6 infection in cattle, Japan, 2015.Emerg Infect Dis 24: 902-905. (2018)

[2] Maan, N et al.: RT-PCR assays for seven serotypes of epizootichaemorrhagic disease virus & their use to type strains from theMediterranean region and North America. PLoS ONE 5: e12782. (2010)

[3] Ohashi, S et al.: Simultaneous detection of bovine arboviruses using single tube multiplex reverse transcription polymerase chain reaction. J Virol Methods 120, 79 85. (2004)

[4] 白藤浩明:牛の異常産や熱性疾患の原因となるアルボウイルスに関する最近の知見.  
The journal of FarmAnimal in Infectious Disease Vol.7 No.3 2018

[5] 2023年度 牛のアルボウイルス感染症サーベイランス結果報告

[6] 2024年度 牛のアルボウイルス感染症サーベイランス結果報告

☆動物用医薬品副作用報告（令和8年6月）(1/2)  
産業動物における動物用医薬品副作用に関する報告  
（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10）

|                  |                                                                                                                                                                                |                                                                        |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 製品名              | “京都微研”<br>牛ヘモフィルス<br>ワクチン - C                                                                                                                                                  | “京都微研”<br>キャトルバクト3                                                     |
| 製造販売業者名          | 株式会社微生物<br>化学研究所                                                                                                                                                               | 株式会社微生物<br>化学研究所                                                       |
| 動物種              | 牛                                                                                                                                                                              | 牛                                                                      |
| 発現動物数／<br>投与動物数  | 1 / 1                                                                                                                                                                          | 1 / 不明                                                                 |
| 性                | オス                                                                                                                                                                             | オス                                                                     |
| 年齢               | 10ヵ月                                                                                                                                                                           | 1歳                                                                     |
| 投与前の<br>健康状態     | 不明                                                                                                                                                                             | 不明                                                                     |
| 以前の使用歴           | 不明                                                                                                                                                                             | なし                                                                     |
| 以前使用時の<br>副作用の有無 | 不明                                                                                                                                                                             | －                                                                      |
| 投与量              | 2mL                                                                                                                                                                            | 1mL                                                                    |
| 投与方法             | 筋肉内注射                                                                                                                                                                          | 筋肉内注射                                                                  |
| 投与日              | R8.3.28                                                                                                                                                                        | R8.5.8                                                                 |
| 副作用発現日           | R8.3.28                                                                                                                                                                        | R8.5.8                                                                 |
| 副作用の種類           | 起立不能                                                                                                                                                                           | 発見時死亡                                                                  |
| 治療の有無            | 無処置                                                                                                                                                                            | 無処置                                                                    |
| 転帰               | 死亡                                                                                                                                                                             | 死亡                                                                     |
| 担当獣医師に<br>よる評価   | 評価なし                                                                                                                                                                           | 因果関係がある                                                                |
| 製造販売業者に<br>よる評価  | 本剤の注射から<br>起立不能および<br>死亡に至るまで<br>の経過に関する<br>情報が不足して<br>いるため、因果<br>関係不明と判断<br>した。<br>なお、本事例は<br>有効期限を過ぎ<br>たロットを用い<br>ており、使用者<br>へは使用期限を<br>過ぎていないこ<br>とを確認するよ<br>う注意喚起を行<br>う。 | 本剤注射後1時<br>間以内の死亡例<br>であり、他に考<br>えられる要因も<br>ないため、因果<br>関係があると断<br>断した。 |

## ☆動物用医薬品副作用報告（令和8年6月）

(2/2)

産業動物における動物用医薬品副作用に関する報告（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10）

| 製品名          | リスポバル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ポーシリスPCV IDAL                              | エンテリコリックス                     | レスピシュアワン            |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------|---------------------|
| 製造販売業者名      | ゾエティス・ジャパン株式会社                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | MSD アニマルヘルス株式会社                            | ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社  | ゾエティス・ジャパン株式会社      |
| 動物種          | 牛                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 豚                                          | 豚                             | 豚                   |
| 発現動物数／投与動物数  | 1 / 2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 1 / 30                                     | 2 / 8                         | 70 / 200            |
| 性            | メス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | オス                                         | メス                            | 混在                  |
| 年齢           | 1 ヶ月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 不明                                         | 2 歳                           | 14日                 |
| 投与前の健康状態     | 良好                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 不明                                         | 良好                            | 良好                  |
| 以前の使用歴       | なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | なし                                         | あり                            | なし                  |
| 以前使用時の副作用の有無 | －                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | なし                                         | なし                            | －                   |
| 投与量          | 1 ドース                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 0.2mL                                      | 2mL                           | 1 ドース               |
| 投与方法         | 皮下注射                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 皮内注射                                       | 筋肉内注射                         | 筋肉内注射               |
| 投与日          | R8.5.21                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | R7.10.16                                   | R8.4.17                       | R8.5.7              |
| 副作用発現日       | R8.5.21                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | R7.12.1                                    | R8.4.17                       | R8.5.7              |
| 副作用の種類       | 死亡                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 跛行、元気がない、食欲不振、体重減少、死亡、有効性の欠如（サーコウイルス）、剖検実施 | ふらつき、強膜充血、散瞳、流涎、虚脱、紅斑、意識障害、紫斑 | 死亡、神経学的徴候（詳細不明）     |
| 治療の有無        | 無処置                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 不明                                         | 無処置                           | 無処置                 |
| 転帰           | 死亡                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 死亡                                         | 回復                            | 進行中（65頭）<br>死亡（5 頭） |
| 担当獣医師による評価   | 因果関係がある                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 因果関係は不明                                    | 因果関係は不明                       | 因果関係は不明             |
| 製造販売業者による評価  | <p>本事例は、生後1 ヶ月齢の黒毛和種雌子牛2 頭にリスポバルを用法用量通り投与し、うち1 頭が投与数分間は異常が無かったものの、投与から1 時間以内に容態が急変し、死亡（投与からの経過時間は不明）しているのが確認された事例である。投与時は健康であったこと、併用薬はなかったこと、容態急変は投与から1 時間以内かつ死亡までの時間は投与から約2 時間以内と推測できることから、リスポバル投与によるアナフィラキシーショックの可能性は高く、因果関係はあると考えられると判定する。特に生後2 ヶ月齢以内の投与に関しては、添付文書の専門的事項の①警告および③副反応にも注意喚起されているが、ワクチン投与後における一定時間の慎重な経過観察の重要性について、改めて獣医師および生産者へ周知徹底していきたい。</p> |                                            |                               |                     |
|              | <p>死亡は製品投与後62日後（他の症状は46日後）より認められたため、本製品との時間的な関連性は弱い。当該豚の死亡は事故によるものと考えられたものの、剖検の一環として実施されたPCR 検査では、PCV2（豚サーコウイルス2 型）が陽性であった（ウイルス量は不明）。本製品との関連性を否定できないが、他の病因も除外できないため、因果関係は不明と判断する。</p>                                                                                                                                                                           |                                            |                               |                     |
|              | <p>本症例は本剤接種後1 分以内に症状が発現しており、接種から発現までの時間と症状から、ワクチン接種に起因するアナフィラキシー反応であった可能性が高いと考える。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                            |                               |                     |
|              | <p>本症例は2 週齢の子豚約200頭にレスピシュアワンを用法用量どおりに投与し、約30%の70頭に神経症状が認められ、内5 頭が死亡した事例である。投与前後に他の薬剤を投与していないこと、神経症状の確認が投与後30分以内に認められたことから当該ワクチンによるアナフィラキシー反応の可能性は否定できないが、投与から死亡確認までの経過時間やばらつき（午前の投与に対して、午前に2 頭、午後に3 頭）から、他の要因も考慮する必要があるが、神経症状の具体的な内容や経過も不明であることから、因果関係は不明と判定する。</p>                                                                                             |                                            |                               |                     |

## ☆各班だより (畜水産安全管理課 愛玩動物用飼料対策班)

皆様は「ペットフード安全法（愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律）」をご存じでしょうか？今から約18年前に施行された比較的新しい法律で、農林水産省と環境省が共管しています。

本法は、犬及び猫を対象とした飼料、いわゆるペットフードの安全性確保を目的としており、製造業者及び輸入業者に対する届出義務を課すとともに、成分規格、製造方法の基準、表示基準を定めています。近年、ペットフードの生産量に大きな変動はないものの、業者からの届出件数は増加傾向にあり、令和7年3月末時点で製造業者は約10,200、輸入業者は約1,000にのぼっています。

これらの届出は全国の農政局等において受理され

ていますが、限られた人員の中で対応しているのが現状です。届出時には制度の概要説明に加え、安全なペットフードの製造に向けた注意喚起を行っており、また、FAMICと連携しながら立入検査などの監視業務も実施しています。

近年、「ペットは家族の一員」という認識が広く浸透し、ペットフードの多様化が進んでいます。「人も食べられる」と表示された製品や、ケーキ、ピザ、アイスクリームといった人の食品と見間違えるような商品も見られるようになりました。今までにはないペットフードが増えるため、安全性の確保が重要となっています。また、販売経路についても、SNSによる広告やフリマアプリにおける販売など多様化しています。こうした多様化は利便性の向上に寄与する一方で、製品や事業者の増加を背景に、より一層の適正な表示や安全管理の確保が求め

令和8年7月

ペットフード製造業者・輸入業者・販売業者のみなさまへ

## ペットフードの安全確保のために

愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律  
(ペットフード安全法) の目的

ペットフードの製造等に関する規制を行うことにより、ペットフードの安全性の確保を図り、もって愛がん動物（ペット）の健康を保護し、動物の愛護に寄与することを目的としています。

### ペットフード安全法の概要



#### ○対象となるペットフード

総合栄養食、一般食のほか、おやつやスナック、ガム、サプリメント、ミネラルウォーターなど犬・猫の栄養になるもので、動物用医薬品等以外のもの（動物用医薬品等は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規制を受けますので、本法の対象外です。）

#### ○ペットフードの基準・規格の設定及び製造等の禁止

国はペットフードの製造方法及び表示の基準、成分の規格を定めることができ、その基準・規格に合わないペットフードの製造、輸入又は販売を禁止

#### ○有害な物質を含むペットフードの製造等の禁止

有害な物質を含むペットフード等の製造、輸入又は販売を禁止

#### ○ペットフードの廃棄等の命令

国は、基準・規格に合わない、あるいは有害な物質を含むペットフードが販売等された場合、事業者に対してそのペットフードの廃棄、回収等を命令

#### ○製造業者等の届出の義務

ペットフードの輸入業者又は製造業者は、氏名、事業場の名称等の届出をすること

#### ○帳簿の備付けの義務

ペットフードの輸入業者、製造業者又は販売業者（小売の場合は除く）は、販売等をしたペットフードの名称、数量等を帳簿に記載し、保存すること

#### ○報告徴収、立入検査等

国と（独）農林水産消費安全技術センター（FAMIC）は、ペットフードの輸入業者、製造業者、販売業者等に対して、報告徴収及び立入検査等を実施

農林水産省



事業者向けリーフレット

られています。

さらに、シカ肉等を原料としたペットフード（ジビエペットフード）も増加しています。令和3年9月に施行された改正鳥獣被害防止特措法においては、捕獲した鳥獣の有効活用の一環としてペットフードへの利用が位置付けられました。一方で、野生鳥獣は家畜に比べて寄生虫や細菌を保有している可能性が高く、適切な衛生管理が求められます。このため、令和4年度に農村振興局鳥獣対策・農村環境課の交付金事業において「安心・安全なジビエペットフードのために～ジビエペットフード原料に関するマニュアル～」を作成しました。ペットフード安全法の簡単な解説や生肉の危険性（ペットだけでなく家庭内に感染が広がるおそれや、動物園のと体給餌も実は生肉ではないこと等）についても紹介していますので、ご一読いただければと思います。

ペットフードを介したペットとのコミュニケーションは、単なる「食事の時間」以上の意味を持っているかと思います。ペットは、飼い主が食事を用意してくれることで信頼や安心できる存在と認識してくれていると思います。また、よく食べる日は元気、食欲がない日は体調不良やストレスのサインかもしれません。最近、老犬の介護をしたのですが、元気に食べてくれる姿は、安心や喜びを感じさせてくれると改めて思いました。

ペットフードを取り巻く環境は今後も変化していくことが予想されますが、その変化に対応しながら、安全で安心なペットフードの確保に引き続き努めてまいります。

## 安心・安全なジビエペットフードのために

～ジビエペットフード原料に関するマニュアル～



ジビエペットフード利用推進協議会



ジビエマニュアル



ごはんの時間はペットとの大切なコミュニケーションの時間

通信

2月の衆院選後に始まった特別国会が約1週間の会期延長はありましたが先日閉会しました。今国会では、豚熱対策、LSD、水際対策を強化する家畜伝染病予防法の改正案が審議されたほか、生産現場における診療獣医師や家畜衛生対策など食料の安定供給に関わる業務を担う公務員獣医師などの産業動物獣医師の確保についても質疑がありました。農林水産省では獣医学生への修学資金やインターンシップへの参加の支援、産業動物獣医師の魅力発信等に取り組んでいますが、学生によるペット診療分野への就職希望が根強い実態もあり、いかにして多くの学生に産業動物分野への関心を高めてもらうかが課題と感じています。このような中、去る7月21日に鈴木農林水産大臣が麻布大学を訪問し獣医学生と産業動物獣医師に関する意見交換が行われました。ペット診療を志して入学した学生が多い中、産業動物獣医師という選択肢に興味を持

てたという声、小さいころから大動物や獣医師と関わる機会があるとよい、仕事の内容を知る機会が少ないといった意見が聞かれたほか、給与面についての情報も知りたいという率直な意見もありました。獣医師を目指そうとする子供を増やすこと、産業動物分野に憧れを持って獣医大学を目指してもらうこと、学生時代に産業動物分野の職業への関心を深めってもらうこと、様々なアプローチができるよう今後の対策に活かしてまいりたいと思います。

毎週月曜日発行

## 家畜衛生週報

編集・発行：農林水産省消費・安全局  
畜産安全管理課、動物衛生課

☎03(3502)8111 内線 4581

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1